

平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

1. 学校概要

学校名 福島県須賀川市立白方小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒9 6 2 - 0 3 0 1
福島県須賀川市今泉字梅田 1 8 1

E-mail shirakata-e@fcs.ed.jp

Website http://www.sukagawa.gr.fks.ed.jp/?page_id=184

児童生徒数 男子 5 5 名 女子 5 6 名 合計 1 1 1 名
児童・生徒の年齢 6 歳～1 2 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☐ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（日常的な E S D の実践のための研究）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

1 日常の教育活動の中でのESDの実践

昨年度は、「ESDカレンダーの改善」や「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の再構成」などを通して、「どのような視点で」「どのような内容の学びを」「どのような力をつけるために」「どのような教科・領域と関連付けて」ESDの学びをデザインすればよいのかを明確にした。

これを受け、本年度は、全学級が日常の教育活動の中でESDを推進した。ここでは、その中から、2年生、4年生、6年生の実践について紹介する。

<2年生の実践>

① 実践の内容

4月、生活科のスタートに当たり考えたのは、「子どもたちは白方のことを意外と知らない。町たんけんを通して、白方のすてきなところを知ってほしい。そして、自分が知ったひみつを伝える楽しさを体験させたい。」ということだった。そこで、1学期から2学期にかけての学習「町たんけん」を計画的に広げていこうと考えた。

1学期は、まず、「学区がどれくらい広くて、どんなものや場所があるのかを知ること」、「探検の仕方を身につけること」「見つけたひみつをまとめて直接伝えることを体験させること」の3つを考えた。

そして、2学期は、「目的を持って探検をすること」「学校から歩いて行くことができる場所にどんな場所やものがあり、人がいるのかを見つけること」「見つけたひみつを自分なりの方法でまとめ、相手にわかるように伝えること」の3つをさせたいと考えたが、まだ漠然としていた。

子どもたちには、見通しを持たせるため、生活科の授業びらきの際に1, 2学期の町探検について概要を話した。

4月 「どきどきわくわく まちたんけん」 笹原川の千本桜の探検

3年生と一緒に、千本桜を見に行った。ここでのねらいは、「すぐ近くにこんなすてきな場所があることを知る」「春を五感で感じる。」だった。見つけたものを記録できるように、2人で1台のカメラをもち、行きと帰りで分担して、見つけたものを撮らせた。探検後のまとめは、自分の撮った写真を使って、A3版一枚にアルバム形式でまとめさせた。

<児童が撮った写真>



<児童作成の「まとめ」>



写真を切り貼りし、その周りにコメントや絵を描き込んだ。

6月 「どきどきわくわくまちたんけん」「みんながつかう まちのしせつ」 学区全体・公共の施設の探検（岩瀬図書館・給食センター・公民館・駐在所・岩瀬歯科）

1回目の町たんけんは、まずバスで学区全体を走ってもらい、車窓から学区の様子を見させた。その後、公共の施設の探検を行った。図書館と給食センターは全員見学に行き、その他の場所は、自分で行きたい場所を選ばせ、それを元に作った班ごとに探検を行った。

ここでのねらいは、「自分の行きたい場所に行き、知らないひみつを見つけてくること。」そのため、事前に見てきたいことを考えさせ、場所毎のメモ用紙を用意させた。

＜探検の様子＞



- 探検の際に、話を聞きながらメモをとることが難しく、学校に戻ってから覚えていることを書き足させた。しかし、よく覚えていない場所があり、書くことができない児童もいた。メモのとらせ方が次の課題として残った。

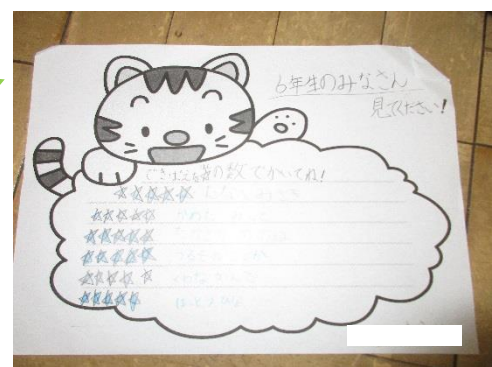
探検のまとめを行う際、「だれに」ひみつを伝えたいのかを考えさせ、伝える相手を決めて、相手にあったまとめ方をすることをめあてとした。まとめる方法は、リーフレット型（国語「たんぽぽのちえ」のまとめで行った方法）やアルバム形式（千本桜のまとめ）、本形式などいくつかの例を提示して、自分ができそうで相手にあったものを選ばせた。また、同じ方法を選んだ児童で班を作り、作業を進めさせた。

＜児童の作品＞



自分なりの工夫をしてまとめることができた。

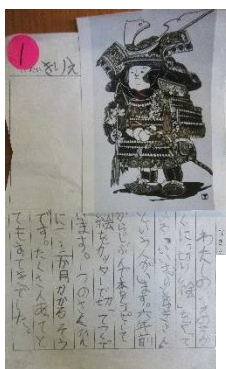
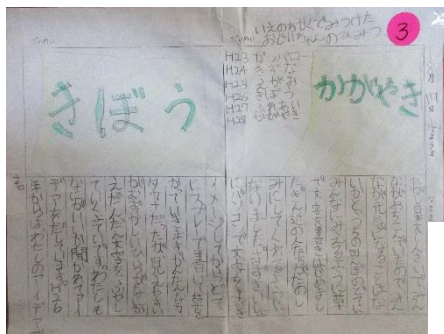
伝えに行く際には、分かったかどうかを5つの☆で書いてもらうカードを用意し、記入してもらった。上級生に聞いてもらい、☆とサインを書いてもらったとうれしそうに話す児童が多くいた。



夏休みの宿題 ～家の近くを探検して、知らなかったひみつを探してこよう。

2学期の町探検に向けて、夏休みに家の近くを探検して、ひみつを見つけてくる宿題を出した。7月の懇談会で、ねらいと方法を保護者にも説明し、協力を依頼した。その結果、いろいろなひみつが集まった。

<児童のカード>



児童は、「すごい人」「自然」「昔からあるもの」など、いろいろなひみつを見つけてきた。



夏休み明けに発表会を行い、学区の地図に書いてきた絵日記を貼り、掲示した。2学期の町探検は、その中から行きたい場所や見たいもの、話を聞きたい人など、探検したいことを考えさせ、探検に行くことにした。

9月 「もっとなかよし まちたんけん」自分が行きたい場所を選んでのまち探検（2回）

まず、自分が探検したい場所（方面）を決めさせ、同じ場所を探検したい児童でグループを作成した。その後、たんけんのめあて、たんけんに行く場所や順番、約束を自分たちで話し合わせた。探検場所が自分が住んでいる地区とは違うため、行ったことがない児童もいた。そのため、保護者に協力を依頼し、各グループに一人ずつついてもらい、道案内をしてもらった。

探検後は、見つけたひみつをカードに書き発表会を行った。また、拡大した学校周辺の地図に貼り、掲示した。



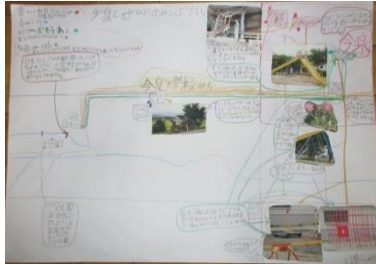
2回目の探検場所は、ほとんどの児童が1回目の探検の友達の発表を聞いて行ってみたい場所を決めた。探検の計画立ては1回目と同様に行った。探検後のまとめも、1回目と同様に行った。

<祖父母参観での発表>

2学期に行った探検で見つけたひみつの発表を祖父母参観で行った。発表する内容は、児童一人一人が知らせたい内容を組み合わせて作成した。また、児童が伝えたひみつの内容を事前に知っていたかや伝わったかなど、児童が聞きたいことを会場の人たちに判定してもらえようにし、一方通行の発表にならないように工夫した。児童は、自分が見つけたひみつを知らなかった人がたくさんいることに驚いたり、内容が伝わったと感じたりすることができた。その達成感が、次の学習へとつながった。

11月～12月「つたわる広がる わたしの生活」 ～わたしたちのまちのひみつをつたえよう～

まず、11月18日に全国から来校した先生方に、白方のひみつを伝えるという目的をつかませた。その上で、4月からの探検を振り返り自分が伝えたい内容を決め、伝えるための作品をどのような形にするかを考えさせた。一人一人が伝えたい内容と伝えるための自分なりの方法を考えて作品を仕上げることができた。



作品完成後に、作品を使って学級の友達だけでなく校内の他学年の児童や先生方に伝える練習を行った。その際、本番と同じようなカードを用意し簡単な評価と感想を書いてもらうようにした。児童は、朝の時間や休み時間を使って、意欲的に聞いてもらえる相手を探し、発表の練習を行った。

② 白方小学校のESDの視点に立った学習指導で育む能力・態度について

<多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力>

○ 「町たんけん」を繰り返し行うことで、見学の計画のたて方や見学の仕方、まとめ方などが身についた。行く前に、何を見てくるのかという目的意識を持ち、見学の約束や自分なりのめあてを考えたことができた。また、見学先ではまずしっかりと話を聞き、分からないことはその場で質問することや、聞いたことを後でメモすることなどができるようになってきた。まとめる段階では、誰に伝えるためにまとめるのかを考えて、相手に合わせた工夫をしたりわかりやすくまとめるための工夫をしたりすることができるようになってきた。

● 自分なりの工夫はできるようになったが、友達のアドバイスを取り入れたり、良さをまねしたりすること、もっとよくするためにどうすればよいかということ自分で考える力は、個人差が大きい。今後は友達との交流の中で、「もっとよくするために」という視点で感想を伝え合う場面を設定していきたい。

<気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度>

○ 様々な教科で、ペア学習やグループ学習を行ってきた。その中で、自分の考えや気持ちを伝えたり、聞いた感想を伝えたりすることが出来るようになってきた。いろいろな学年や先生方に協力していただいたおかげで、自分の考えを話して受け止めてもらえることの心地よさを感じることができた。声が小さかったりなかなか話すことができなかったりした児童も、伝えたいという思いを持って話すことができるようになってきた。また、グループ毎の探検では、友達を気遣ったり、どうするかを話し合ったり決めていく姿も見られた。

<さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度>

○ 町探検を通して、地域の良さや自分たちを取り巻く環境の温かさに気づいたりすることができた。

● 今後は更に、自分たちが見つけた地域の良さや温かさを守っていくために、自分にできることを考えたり、実行したりすることができるようになっていきたい。そのためには、町探検で学んだことをこれからの生活や学習につなげていく手立てが必要であると考えている。

<よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度>

○ 2年生であることから、学校行事などは一度体験をしている。行事の前には、昨年を思い出させ、活動の内容に見通しを持たせたり自分のめあてを決めさせたりしてきた。また、未知の体験についてもできる限り事前に説明をし、どのような活動をするのかを捉えさせるようにしてきた。その結果、2年生なりにではあるが、自分でたてためあてに向かって見通しをもって一生懸命に取り組む姿が見られた。また、振り返りを行うことにより、うまくできたことやがんばったことを自信につなげられた。

- 学んだことを自分の生活と結びつけて生かそうとする態度は育っていないと感じることが多い。めあてに向かって一生懸命がんばるが、おわるとそこでおわりまた次のことを始めるといふ感じである。一つ一つが点のままで、それをつなげて生かしていく力をつけるためには、どうしたらよいか課題である。

< 4年生の実践 >

① 実践の内容

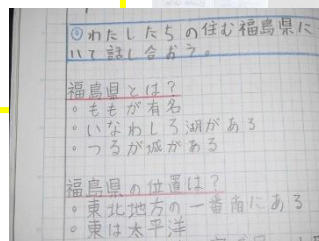
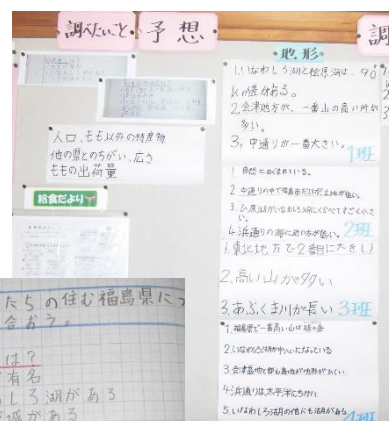
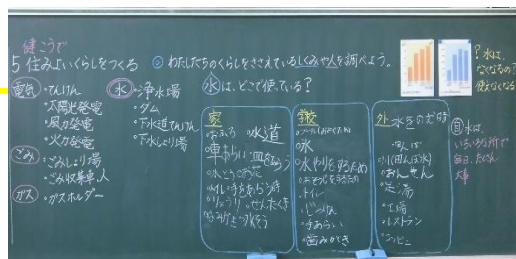
4年生の総合的な学習のテーマ 「私たちを取り巻く環境（岩瀬から県へ）」

今年度の4年生の総合的な学習テーマは、社会科の学習内容との関連が多いため、年度当初から、社会科の授業と総合的な学習の授業でつながりを持たせた展開を行ってきた。

まず、社会科の学習における学び方を身に付けることをESDの第一歩目とした。

社会科 ～学び方を身に付ける

- ① 事象提示・資料等から現状を知る。
② 現状から、考えられることを挙げる。
③ 学習課題を設定する。
- ④ 学習課題およびその時間の疑問点についての予想を立てる。
⑤ 予想に基づいて、調べ学習を進める。
- ⑥ 調べた結果をまとめる。
⑦ 結果をグループや全体で共有する。



1の段階では

- 事象についての気づき・興味関心が高まり、社会科に限らず他教科での意欲の向上につながった。また、各自が自分の気づきと学習課題との関連を意識しながら、学習を進めることができた。
- 一人一人の気づきから、全体での学習課題の設定までに時間がかかり、単元の導入段階で時数が多く必要になることがあった。

2の段階では

- 調べ学習を進める際に、自分の予想と比べることを常に意識することができた。そこから、さらに、「なぜ、予想と違ったのか」「実際の事象は、どのような理由からか」といった多面的な考え方が少しずつできるようになった。
- 必要な資料収集の能力に個人差が大きく、十分に調べ学習を進めることができない場面が見られた。

3の段階では

- まとめたことをグループや全体で共有したことによって、個人でのまとめでは気づかなかったことも知識として習得することができた。

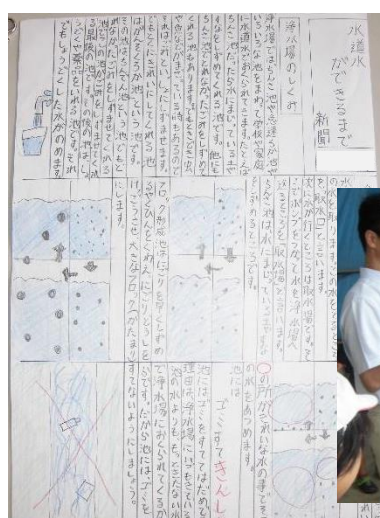
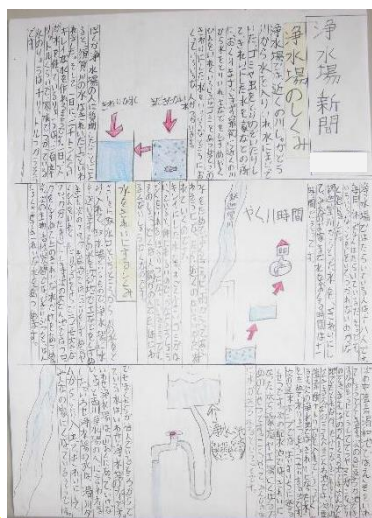
社会科・総合的な学習 ～見学学習を通して、まとめる～

◇ 浄水場・衛生センターの見学



- 総合的な学習で「環境」という視点を持たせたことにより、多面的に考え、質問する姿が見られた。
- 自分たちの未来、環境の未来についての質問も出され、担当の方に称賛をいただいた。

◇ 子どもたちがまとめた新聞



② 白方小学校のESDの視点に立った学習指導で育む能力・態度について ＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

- 学習課題の設定、課題に対する予想の段階で、一人一人の気づきを大事に扱い、全体で共有した。そのことにより、自分だけでは思いつかなかったことや新たな視点を見つけ、見通しを持ちながら学びを深める姿勢が身についてきた。また、予想を立てるには、その理由が必要であるということや、今までの知識と結び付けて考えることが大切だという学びのつながりにも気づくことができた。
- 調べたい内容についての情報をどうすれば集められるのかという点で、だいぶ時間が必要だった。十分な資料を集めること、検索の方法等の力の個人差への対応が難しく、解決に向けての活動が滞る場面が見られた。どの教科でも必要とされる力なので、高学年に向けて高めていきたい。

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

- 全教科を通して、同じ考えどうしであったり、あえて違う考えどうしにしたりと、様々なグループ構成で学び合う活動を行ってきた。子どもたちは、誰と一緒になってもすぐに話し合いを始め、意見をまとめ発表するところまで進めることができる力がついてきた。「一人で考えるよりも、いろいろな答えが出る」「友達と話し合うと、よくわかる」と、実感しながら活動している様子が見られた。
- なかなか意見がまとまらないときに、どう結論づけるか。その過程で、進行が止まってしまうことが何度かあった。その都度、論点を確かめながら交流できるよう助言してきた。今後は、自分たちで話し合いを修正したり、解決したりという方法を身につけることができるようにしていきたい。

＜ささまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

- 社会科での見学学習、総合的な学習での調べ学習、どちらも「環境」という視点が大きく関わっていたことが、思考の深まりを促した。子どもたちからは、「社会科で水の学習をしたときには」や「衛生センターでの工夫は」などの言葉が多く、既習の内容と関連させてつながりを考える姿が見られた。特に、自然や社会とのつながりに気づき、その大切さを考えることができた。
- 自然や社会とのつながりに比べると、環境を守るための工夫や努力などを担う「人」のつながりについて、やや理解が難しかった。今後さらに、人々の努力や協力について実感できるような手だてが必要である。その際に、自分に立ち返って、比較して考えることが特に重要である。

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

- 4年生になり、委員会という学校全体に関わる活動が始まった。大変意欲的に取り組み、責任感や使命感が育っている。各委員会で学校のための仕事を分担しているが、5・6年生が不在でも活動を進める姿が見られるようになった。学級での係活動にも、委員会活動のよい影響が見られている。身近な学級・学校という場をどう良くしていくかという意識を持ち、活動できたことは、大変望ましい。
- 決められた活動においては、望ましい態度を身につけることができてきた。しかし、係や委員会などの活動を離れたところで意識していることは、少なかったように感じる。例えば、学級での日常で、友達同士の関係で、自分自身の向上の面で、「よりよく」「主体的に」取り組める場面は多々あるが、残念ながら行動には結びついていない。これから、自分の生きる力とともに、多くの人と生きる力を高めるために、身近なところに目を向けながら行動する意識が重要であると考えます。

＜6年生の実践＞

① 実践の内容

6年生の総合的な学習の時間のスタートは、昨年度の卒業生が行った「ネパールとの交流」を振り返ることから始まった。まずは昨年度やりとりをしたビデオレターを見て、自分達もどこかの国と交流したいという気持ちを持たせた。そして、今年度は、子ども達の発想を一番大切にしながら学習を進め、白方小版4つの能力・態度を身に付けさせたいと考えた。

ナマステ小学校からのビデオレターとの出会い

6月には法政大学の坂本旬教授が来校し、アメリカのナマステ小学校からビデオレターが届いたことを子ども達に伝えた。しかし、ビデオレターを見るとネイティブの英語で何を言っているのかが分からなかった。児童からは、「英語の先生に質問してはどうか」という考えが出され、岩瀬中学校の英語科担当教員である関芳理教諭とALTの協力を得て、ナマステ小学校の児童が話している英語を日本語へ訳していただいた。また、自分達が伝えたいこともあらかじめ準備しておき、英訳していただいた。

＜ビデオレターを見て、岩瀬中の関先生・ALTと学習を進める様子＞



また、「ふるさと学習」を経験し、国語科の「町のよさを伝えるパンフレットを作ろう」と関連させて白方地区の遺跡や古墳、昔の様子などをまとめたことで、ナマステ小学校に白方の地域の良さを生かしたビデオレターを作成するというアイディアも出てきた。話合いの様子を聞いてみると、子ども達の頭の中には伝えたいことやビデオレター作成のアイディアがたくさんあることが分かった。

ナマステ小学校への返信ビデオレター作り

子ども達に、ナマステ小学校へ何を伝えたいのか考えさせた。テーマは、「学校生活」、「学校行事」、「学校中みんな仲が良い様子」、「学校の周りや校舎内の紹介」、「授業の様子」の5つになった。学校生活のグループでは、給食を紹介することになった。道德の「日本のよさを守りたい」で和食が大切な日本の文化であることを学んだ子ども達は栄養バランスの良い給食をおいしく食べる様子を撮影した。また、自分達で配膳や片付けを行う様子も大切であると考え、ビデオレターに加えた。また、縦割り班での活動が多く、1年生から6年生まで仲が良いという白方小学校の良さを伝えるため、縦割り清掃や白方っ子タイム（縦割り班での業間運動）にも積極的に取り組むようになった。

7月19日には、法政大学の坂本旬教授を招いて、ビデオレターの発表会を実施した。5年生にも参加してもらい、次に作るビデオレターで生かすことができるよう、たくさんの意見をもらった。

＜ナマステ小学校へのビデオレター作成の様子＞



アメリカについて調べ学習 ～ ポスターセッション

2学期になり、ナマステ小学校から返信が来るまでアメリカについての知識を増やしておけば、次のビデオレターに生かすことができるだろうと考えた。そこで、2学期はアメリカについて「食べ物・生き物・生活（お金や習慣など）・大統領・言語・偉人・文化や行事」などのテーマで調べ学習を行った。インターネットが中心ではあったが、社会科の「日本とつながりの深い国々」と関連させて進めたことで、社会科の教科書や資料集、図書室の本からもたくさんの知識を得ることができた。家に帰ってから自主学習でアメリカについて調べてくる児童も見られた。そして、調べたことを模造紙にまとめてポスターセッションを行った。さらに、学習を進めながら単元のつながりを見直し、ESDカレンダーの修正を行った。

＜ポスターセッションの準備の様子＞



＜ポスターセッションの様子＞



＜付箋を島分けする様子＞



＜タブレットで調べる様子＞



ポスターセッションでは、タブレットを用いて映像を流しながら発表したり、アメリカの世界遺産の写真を見せながらランキング形式で発表したりと各班で工夫が見られたが、原稿を暗記できていなかったり、相手を見ながら話せなかったりと、準備が不十分であった。聞き手には、良かった点や質問、アドバイスを色分けして付箋に書かせた。発表後、グループごとにまだ調べたりないことが出てきたため、その場ですぐにタブレット端末で調べ学習を行った。

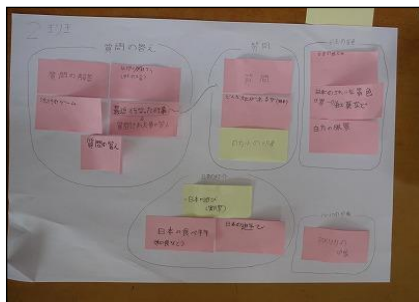
「白方から世界へⅠ」のまとめとして、祖父母参観で今までの交流の成果を地域の方々に発表した。

「白方から世界へⅡ」Chicago HOPES for Children（シカゴホープス）との交流

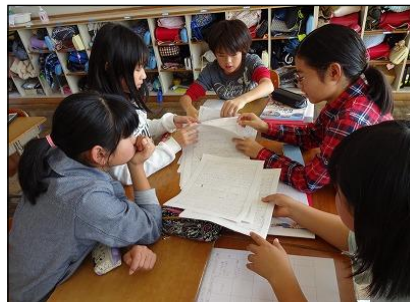
ナマステ小学校から2回目のビデオレターが来るはずだったが、交流が難しくなったと坂本旬教授から連絡があった。そこで、坂本旬教授にシカゴ市にあるルーズベルト大学のJiwon 教授を紹介してもらい、直接メールでやり取りをして、「Chicago HOPES for Children」という避難所で過ごす団体からビデオレターをいただいた。今回の交流では、「アメリカの調べ学習」、国語科の「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」の学習を生かしてビデオレターを作ろうと子ども達に伝えた。

ビデオレターのテーマは、「日本食」、「日本の文化」、「昔遊び」、「学校行事」、「未来について」の5つになった。絵コンテの作成にも慣れ、自己紹介の仕方やBGMまで考えながらビデオレターの作成をすることができた。また、ワールドカフェ方式でお互いの映像を見合い、メッセージをより分かりやすく伝えることができるよう話し合いをしてよりよいものにしようとする姿が見られた。

＜Chicago HOPES へのビデオレター作成の様子＞



何を伝えたいのかを付箋に書き、グループごとに話し合っ
て島分けをさせた。伝えたい
ことがたくさん出された。



今まで学習してきた英文を
使い、できるだけ自分達でセ
リフを英訳して撮影した。英
語の発音にも気を付けた。

今後、ビデオレター発表会を行い、坂本教授にウェブサイトへ載せていただく予定である。

トルコとの交流（東洋学園大学 坂本ひとみ教授の協力を得て）

12月9日には、東洋学園大学の坂本ひとみ教授とゼミ生が来校し、5・6年合同でトルコについての授業をしていただいた。社会科の教科書に「エルトゥールル号」が載っており、6年生児童はトルコに親しみを持って参加した。そして、須賀川市の魅力をカレンダーにしてトルコへ送ることになり、1～12月のグループに分かれてカレンダーの作成を行った。まだカレンダーの作成は途中である。今後はカレンダーの作成と、環境を守ることを宣言するビデオレターを作成してトルコへ送る予定である。

＜トルコの授業とカレンダー作成の様子＞



② 白方小学校のESDの視点に立った学習指導で育む能力・態度について

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

- 初めて映像を見る人にはどのように見えるのかということを意識することで、どうすればもっと分かりやすくなるのかと分析的に考えることができるようになってきた。具体的には、遊びのビデオレターで「身近な材料でコマを作ってみるのはどうか？」という考えや、食べ物で「給食と味噌の映像をどうつなげるのか？」など、相手意識を持って考えることでよりよいものを作ろうと努力することができるようになってきた。
- まだ自分達で解決方法を考えることができず、グループでどのようにしたいのかが不明確なまま進めてしまい、困ってから教師に相談しに来るグループもあった。「自分達はこうしたいのだが、どうか」と考えて相談することができるようにさせる指導が足りなかったと感じている。

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

- ビデオレターを作成するにあたり、付箋を使って話し合い、グループ活動の時間を確保したことで、一人一人が自分の考えを持ち、友達に伝えることができるようになってきた。
- ビデオレターの撮影・編集を何度も経験することで、次第に自分達で上手に役割分担ができるようになり、協力して撮影する姿が見られた。
- 友達と考えをつながけながら話し合うことができるようにするために、普段から考えが同じ点や異なっている点をさらに意識させた話し合いをさせなければならないと感じた。

＜さまざまな人や社会、自然などとのつながりを尊重する態度＞

- アメリカやトルコの文化に触れ、日本との違いを理解することができた。特に、アメリカについて調べ、ポスターセッションを行ったことから、日本の文化をより大切にする気持ちが育ってきた。

＜よりよい未来をめざし、その実現に向けて主体的・計画的に取り組む態度＞

- ビデオレターの作成を通して自分達で計画を立てて学習を進める力が身に付いてきた。
- 計画通りにビデオレターの撮影がいかないことは予想された。「今日こそはBGMを入れないと間に合わないよ」等と声を掛けることはあったが、行き詰まってしまった時に自分達で計画を修正したり、変更したりすることはできなかった。計画段階での教師の言葉掛けや、撮影段階での進捗状況の確認が足りなかったのだと思う。今後は、時間内に撮り終えることも頭に入れて計画を立てさせた

2 諸研究会での実践発表と交流

① 平成28年8月5日「第53回教育者研究会（福島会場）」（モラロジー研究所主催）での発表

「教科横断的な指導と道徳的实践力の育成～E S Dの実践を通して」の演題で、ユネスコスクールやE S Dの紹介、E S Dが求められる社会的・教育的背景、E S Dで授業を変える方策、E S Dと道徳的实践力の育成等について、本校のこれまでの研究をふまえて発表を行った。



② 平成28年11月18日「第48回全国小中学校環境教育研究大会」（全国小中学校環境教育会主催）での授業公開

福島県では初めてとなる本研究大会が、本校を会場として開催された。当日は、県内外や地元の小中学校から多数の参加者を得た。本校からは、2年生・4年生・6年生のE S Dの授業を公開した。また、これまでの本校のE S D研究の成果と全学級のE S Dカレンダー、当日の学習指導案等をまとめた冊子『「E S Dの視点に立った学習指導」および本日の学習指導案』を全参加者に配布した。

なお、本校作成資料も含めた当日の資料は、全国環境教育研究会を通じて関連する諸機関や団体にも送付されるとともに、本校から同地区内の全小中学校と須賀川地方ユネスコ協会にも送付した。



3 「福島ESDコンソーシアム」への参加

本校は、昨年度から、文部科学省の「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」を実施する「福島ESDコンソーシアム」に参加している。本年度も、その構成団体である法政大学からキャリアデザイン学部の坂本旬教授に来校いただき、海外の小学生とのビデオレター交流を行った。



4 授業以外でのESDの実践

① 「福島議定書」および校内環境をよくするための取り組み

「福島議定書」は、福島県が温暖化防止のために節電や節水を呼びかけている活動である。児童会の「環境委員会」が節電・節水を呼びかけるとともに、毎月の電気と水道の使用量をグラフ化して掲示して、変化がわかるようにした。

学年ごとに節電節水を進めるための具体的なめあてを立て、毎週金曜日に環境委員の放送による呼びかけにより、自己評価でふりかえりを行っている。各学年のふりかえりを環境委員会が点数化して掲示し、達成状況の見える化に努めている。

また、職員室前の廊下には、環境委員が植えた鉢花とメッセージを廊下の中央に飾っている。



② エコキャップやプルタブの回収運動、ユネスコ「寺子屋募金」への参加

本校児童会は、「力の三本柱 協力・努力・全力 ～三つの力でもっとすばらしい白方小学校を築こう～」というスローガンのもとで活動している。ESDの視点に立った活動として、エコキャップとプルタブの回収、そして、ユネスコ「寺子屋募金」を行っている。「地球のためにできることをやろう」「世界中の恵まれない子を救うために協力を呼びかけよう」という気持ちで活動をしている。



③ 「給食の残食量を少なくするために！」残食量調べ

児童会の「給食委員会」が中心となり、各学年の残食量を調べ、表にして配膳室の入り口に掲示している。毎日の積み重ねで、自分たちの残食の量に関心を持ち、減らすための努力や工夫を行うようになってきた。

④ 白方サイエンスクラブ

「サイエンスクラブ」は、3年生以上の希望者で構成し活動している。主な活動内容は、ビオトープを本来の姿に戻すための活動や、理科についてみんなに興味を持ってもらうため、朝の時間を使って「おもしろ理科便り」を放送することなどである。

本校のビオトープは、水の循環がうまくいかなかったこととザリガニのすみかとなっていたため、「本来のビオトープに戻すためには何が必要か」を外部講師の先生の協力も得ながら学んだり、ビオトープの環境整備をしたりする活動を進めている。



⑤ 全校生による愛校活動

本校の愛校活動は、年に3回（5月、7月、9月）行っている。それぞれの活動には目的があり、全校生で目的を共有し活動している。

あいこうさぎょう ふりかえりカード（1・2年）

ねん なまえ		
5月9日（月）こうていの石ひろい・えだひろい		
めあて「うんどうがいにむけて、こうていをきれいにしよう。」		
☆ めあてができましたか？	はい	いいえ
☆ すすんでしごとができましたか？	はい	いいえ
☆ あとかたづけをできましたか？	はい	いいえ

7月19日（火）		
めあて「1学期間お世話になった場所を、みんなできれいにしよう。」		
場所	すること	
☆ めあてができましたか？	はい	いいえ
☆ きれいになりましたか？	はい	いいえ
☆ あとかたづけをできましたか？	はい	いいえ

9月5日（月）こうていの石ひろい・草むしり		
めあて「市体育祭に出場する5、6年生のために、校庭をみんなできれいにしよう。」		
☆ めあてができましたか？	はい	いいえ
☆ すすんでしごとができましたか？	はい	いいえ
☆ あとかたづけをできましたか？	はい	いいえ

たとえば、7月は、1学期間お世話になった校舎をきれいにするために、どこを（場所）どんなめあてでどう掃除するかを各学年で話し合って決め、実践している。場所が重なってしまわないように、一覧表にして掲示し、上の学年は学校全体を見回して活動する内容を決めている。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☐ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）